

山形鋼等を筋かい材として用いた時の有効断面積 A_1 について、

$$A_1 = A_g - A_d' - h_n \times t$$

ここで、

A_g :筋かい材の全断面積

A_d' :筋かい材のボルト孔による欠損断面積

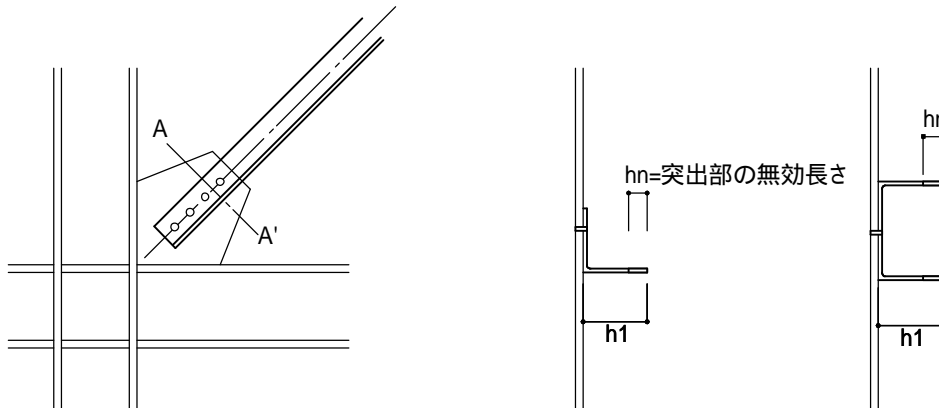
h_n :突出脚の無効長さ

t :突出脚の板厚

筋かい材の断面形	筋かい材を結合しているボルト本数				
	1	2	3	4	5
山形鋼 (h_n)	$h_1 - t_1$	$0.7h_1$	$0.5h_1$	$0.33h_1$	$0.25h_1$
溝形鋼 (h_n)	$h_1 - t_1$	$0.7h_1$	$0.5h_1$	$0.25h_1$	$0.20h_1$

・ h_1 は筋かい材の突出脚の高さ

・溝形鋼の t_1 はウェブ部分の厚さ



なお、山形鋼や溝形鋼が片側にのみ設ける場合は、略算的に $h_n = h_1/2$ とする(突出脚の1/2を無視する)場合もある。

A - A'断面

